

動脈硬化性疾患予防の ための高齢者高血圧管理

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科心臓血管・高血圧内科学

佐々木雄一，大石 充

KEY WORDS

- 動脈硬化
- 高齢者
- 高血圧
- 降圧療法

はじめに

高血圧は、動脈硬化性疾患である脳卒中、心筋梗塞や大動脈解離のみならず、認知症、心不全や慢性腎臓病の発症に及ぼす影響は大きく、降圧療法によりリスクを低減することができる。わが国では75歳以上の後期高齢者人口が全体の10%を占めており、さらに高齢者高血圧の有病率は非常に高くなってきている。本稿では、2019年に改訂した「高血圧治療ガイドライン(JSH2019)」¹⁾を踏まえ、高齢者の動脈硬化予防のための高齢者高血圧管理について概説する。

I. 動脈硬化性疾患と高血圧

高血圧は加齢とともに増加し、2015年には75歳以上の74%が罹患しており、高齢者の高血圧有病率は高い。日本のコホート研究であるEPOCH-JAPAN²⁾では、血圧レベルと脳心血管疾患リス

クの間には正の関連を認めた。高血圧は脳卒中や心筋梗塞、さらに大動脈解離など動脈硬化性疾患のみならず、心不全や慢性腎臓病、認知症などの強い危険因子でもあり、年間10万人以上が高血圧により死亡している³⁾。

II. 高齢者における高血圧の特徴

1. 加齢変化と高血圧

75歳以上の高齢者では非高齢者と異なる生理的・病態的变化を有しており、加齢変化や動脈硬化に伴う高齢者高血圧の特徴を示す(表1)。また、高齢者では、高血圧とは独立した高齢者に特徴的なフレイルや認知機能障害などがあり、個別に対応した診断、治療が必要である。

2. 高齢者の血圧変動

高齢者では、加齢に伴い延髄を含めて圧受容体反射を介した循環調節機能

Management of hypertension in older persons for the prevention of arteriosclerosis.

Yuichi Sasaki (特任助教)
Mitsuru Ohishi (教授)

SAMPLE